

心の成長

岡山市立瀧崎中学校

二年 大賀 ひかる



私は今、瀧崎中学校卓球部の中心となつて、個性溢れる仲間達と毎日汗を流しています。汗を流すといつても、練習だけのことでなく、学校の行事があればその下準備をしたり、授業で使うテレビを運んだり、その他も色々な所で活動の場を広げています。

顧問の先生は、まず第一にそんな「人の為に来る事」を考える先生で、「日課のトレーニングを続けるだけではなく、お手伝いを何か一つ継続して、自分に自信をつける。」とよく言われます。日々のお手伝いの積み重ねが、卓球のプレーにも「自信」となつて表れるというのです。

私達は、一年を通して様々な大会に出場させて頂き、優勝を目標に努力をしています。今まで先輩方の作り上げてきた伝統を後に繋げていかなければ」という責任が重くのしかかっています。さらに、小学校に通っていた頃とは違い、土曜日も日曜日、祝日も自分の時間はほぼ無いので、一年生の時は正直辛く、「二日ゆっくり寝たい。」と弱音を吐いたり、ストレスで偏頭痛がおこつ

たりと、精神的に苦しい時期もありました。しかし、そんな自分を支えてくれたのは、同じ気持ちと一緒に乗り越えてきた仲間や、厳しい先生のおかげと思うようになりました。今の自分があるのもそんな周りの方々と、家族の協力があつたからなんだ。と感謝することができるようになりました。

東北で震災もある中、こうして元気に練習できていることがほんとうはとても幸せなことなんだと思えるようになりました。ふと自分の歩んできた道を振り返ると、社会に出たときに必要なマナーや、目上の方に對しての態度、どういふ風に助け合つていけば良いのかなど、これから生きていく中で大切なことを、すべてこの時点で学んでいるのだという事が改めて分かり、また部活という集まりの大切さがわかつたような気がしました。

自分が引退するまであと1年を切つたんだと思うと、何だか寂しい気持ちでいっぱいですが、残りの時間で、今まで自分に与えられてきたものを、次は与える人になり、しっかりと後に残していきたいと思ひます。

全国優勝を経験して

県立岡山朝日高等学校 三年 茅原 有希



私は、今年8月4・5日に行われた総文祭の将棋部門女子団体戦に出場しました。開催地は福島県で、東日本大震災の爪跡がまだ残っていました。放射能の心配もありましたが、そのような状況の中、大会を開催していただけることに感謝し、ベストを尽くそうと思ひました。この大会には1・2年生の時にも出場していましたが、一昨年は準優勝、昨年は5位と思ひ通りの結果を残すことができず、優勝の難しさを痛感しました。これまでの悔しさをバネに、今までより一層努力して今大会に臨みました。

大会初日、予選は全勝で通過、決勝トーナメントに進んで、無事にベスト4に残り1日目は終わりました。2日目の朝は、メンバーは皆とても緊張していました。やるべきことはやったのだから大丈夫。」と励まし合つて対局に臨みました。準決勝の相手は、一昨年決勝戦で敗れた千葉県の高校でした。終始丁寧で指すことができ、一昨年の雪辱を果たせました。決勝戦の相手は、予選で一度戦つた大阪府の高校でした。対局が始まると自然に緊張がほぐれ、のびのびと指せました。副将が負け、三将が勝ち、最後に私が残り、なんとか詰みを見つけることができました。勝つた瞬間は、優勝したという実感はあまりなかったですが、周りから「おめでとう」と言われ、実感がわいてきました。表彰式では、これまでの大会のことが思ひ出され、悔しい思いをしてきたからこそ、この大きな喜びがあるのだと感じました。金メダルをかけてもらった時は感無量でした。

将棋を通して、私は数多くのものを得ました。勝つたときの喜びは、他の何ものにもかえ難く、全国大会で仲良くなった友人は宝物です。そして、切磋琢磨し支え合つて栄冠を勝ち取つたチームのメンバーは、私にとってかけがえのない特別な存在です。これからもこの絆を大切にしていきたいと思ひます。

